

会 議 録				
平成30年度第1回 認知症施策事業推進委 員会	日 時	平成30年5月24日(木) 午後7時～	場 所	小金井市 萌え木ホール A・B会議室
事務局	小金井市福祉保健部介護福祉課			
出 席 者	委 員	竹田委員(一般社団法人小金井市医師会・竹田内科クリニック) 橋詰委員(一般社団法人東京都小金井歯科医師会・歯科診療室橋詰) 田中委員(社団法人小金井市薬剤師会・グリーンベル薬局) 菊池委員(社会福祉法人聖ヨハネ会・桜町病院認知症疾患医療センター) 今井委員(小金井市商工会・株式会社スタート) 川村委員(小金井市立本町高齢者在宅サービスセンター) 林委員(わそら街なかナースステーション) 三井委員(介護相談室ぬくいケアプラン) 閑野委員(特別非営利活動法人ケアサポート湧)		
	事務局	成田氏小金井きた地域包括支援センター 杉森氏小金井ひがし地域包括支援センター 黒木氏小金井みなみ地域包括支援センター 山脇氏小金井みなみ地域包括支援センター 高橋氏小金井にし地域包括支援センター 鈴木高齢福祉担当課長 濱松包括支援係長 福多包括支援係主任 竹宮包括支援係		
傍聴の可否	◎可 ・ 一部不可 ・ 不可	傍聴者数	0人	
傍聴不可・一部不可の場合の理由				
次 第				
1 高齢福祉担当課長 挨拶				
2 議題				
(1) 平成30年度認知症地域支援推進員予定表の確認				
(2) 平成30年度認知症安心ガイドブック実施計画表について				
(3) グループワーク				
3 意見交換				

1 高齢福祉担当課長 挨拶

2 議題

(1) 平成30年度認知症地域支援推進員予定表の確認

別紙「平成30年度 認知症地域支援推進員予定表」参照

以下その他の補足内容

(高橋氏小金井にし地域包括支援センター)

<認知症初期集中支援事業>

- ・今年5月に相談会を開催する予定で、初期の方への働きかけができないか試みる予定。

<認知症サポーター養成講座>

- ・市内のキャラバンメイトの交流会を9月に開催予定。目的は、認知症サポーター養成講座の開催における協力を考えているが、その他にも認知症に関わる方々に幅広く、認知症施策事業への協力をお願いしたい。

(2) 平成30年度認知症安心ガイドブック実施計画表について：各委員より発表

別紙「認知症 安心ガイドブック」普及啓発について参照

以下その他補足内容

(田中委員長)

目標として、安心ガイドブック内の薬剤師の日常業務ではなじみのない用語の解説書の作成を予定。それを用いて薬剤師会員に理解を促進し、実際使用して説明ができるような状況を、今年1年かけてつくりたい。

(今井委員)

・自分自身が認知症について理解しておくことが必要だが、認知症になった後に家族が困ったときに、一カ所わかりやすい相談窓口の電話番号を明記するなど、どこに相談等したら良いのかわかりやすくすることが大切。現相談先の「包括センター」は、市民には包括の意味もわかりにくいことも課題。

- ・周知の工夫が必要：常設の場所、配布するタイミング、年1回の配色の変更等

(3) グループワーク

(濱松包括支援係長)

認知症ケアパス作成の経緯について説明 別紙参照

(福多包括支援係主任)

グループワークについて：前回の委員会で上がった課題に沿って、考えられる状況、背景、改善案を検討する。

なお、今回のグループワークで出された意見は、認知症地域支援推進連絡会等で整理していく。

(グループワーク)

<発表> 1 G

(三井委員)

課題1【必要な人に渡っていない】

状況

・必要なタイミングでもらわないと活かせない、必要な時にない。そのため常に置いてある必要がある。また、ガイドブックの必要性を含めた理解促進が必要。

考えられる背景

・周知方法の工夫が必要（ある程度の予算も考慮しデータ配布、40代、50代の介護者なりうる対象者に渡るようにする）また、認知症という言葉に対する抵抗感がある。

改善案

・駅やコンビニのフリーペーパーを置いてあるところに置く、老人会や町会に配布をお願いする、コンビニ等で店舗配布する。その後の定期的な補充も必要。
・定期的に色やデザインを変えたりしたほうが目にとまりやすい。
・小中学校のきつずサポーターのときに、PTAの関係者にも渡せると良い。

課題2【包括の相談に繋がっていない】

状況

・包括の周知としては、包括のお知らせはがきのほうが渡しやすく使いやすい。
・包括自体の周知が不足しているのではないか
・認知症についてのイメージに先入観があることで相談に至っていないのではないか
・認知症カフェなどでケアパスが使われていないのではないか。

考えられる背景

・包括の数が少なくて、なかなか相談に行けないのではないか

改善案

・持っていきやすいサイズや厚み、持ちやすさも検討
・駅の近くに包括みたいなものがあるといい
・40代、50代の働いている方が相談に来やすい時間帯や場所を考える必要がある

ある

課題3【掲載内容が分かりづらい】

状況

- ・ 包括の案内が裏面にある
- ・ チェックリストの信憑性があるか
- ・ 相談に行く目安がわかりづらい。
- ・ パンフレットの文字が多い、紙の質がつるつるして書き込みがしづらい

改善案

- ・ 包括のはがきなども活用して、利用者の対象地域だけの案内が出ているほうが、包括のほうにつながりやすい。

<発表> 2 G

(林委員)

課題1【必要な人に渡っていない】

状況

- ・ そもそも必要な人とは誰なのかということを検討した。

改善案

- ・ 例えば家族、例えば当事者等対象別につくり直すのいいのではないか
- ・ 今回のケアパスを土台にして、新しいものをつくる。対象別にパンフレットを作成し、必要な人に渡していくのいいのではないか

課題2【包括の相談につながっていない】

状況

- ・ 今後大事な事業と考えられる認知症初期集中支援チームの活動が見えない。関係者でも、活動内容が分からない。

改善案

- ・ 地域包括支援センターの名称を、市民にわかりやすくするために「高齢者何でも相談センター」に変更する。
- ・ 地域包括支援センターの周知として、農業祭りなどで若い世代にもアピールする。
- ・ 今後ケアパスも含めて検討する際、当事者や家族の会議への参加していただき、意見を取り入れられるようにしたらいいのではないか

課題3【内容がわかりづらい】

状況

- ・内容が多すぎる。進行の段階別の末期までは要らないのではないか

改善案

・ケアパスとは別に、初期用のパンフレットと中期用のパンフレットに分けて作成したほうが、対象者別に配布できて良いのではないか。（対象者別にパンフレットを作成する）

（質問1）地域包括センターという名前は、何をしているところなのか等分かりにくいことから、包括支援センターの名称の変更の可能なのか？

（回答1）

介護保険法で正式名称は地域包括支援センターという位置づけになっているが、その他の名称のところもある。当市においては、他市の状況を調べ、次回委員会で報告させていただきたい。

（事務局より）

・認知症講演会について：宮地楽器ホール1階の小ホールにて、来年2月に開催予定の「お元気サミットin小金井」の中での実施予定。現時点で講演内容や講師について意見を問うと、小金井市内の認知症認定看護師（3名）も連携できると良いと考えているとの話があった。

<その他連絡>

（林委員より）

周知について：11月の土曜日に小金井介護事業者連絡協議会が開催予定で、そこで周知の場の提供も可能かもしれない。土曜ということで、若い世代も来ることも想定される。

次回委員会について：来年1月か2月予定。詳細は後日メールにて連絡調整する。